

令和2年度 高等学校OPENプロジェクト実施報告書(3年次)

研究指定校	北海道標茶高等学校	教育局	釧路教育局
-------	-----------	-----	-------

1 研究主題	
「しべパフェ」で元気な町づくりプロジェクト ～標茶町でパフェを食べてみませんか～	
2 研究実践内容	
月	実施内容
4月	・2年次の生徒17名に対してプロジェクトを利用してプロジェクトの内容や今後の活動方針を説明し、新たなプロジェクトのメンバーを募集した。(教科:食品研究)
5月	・今年度の活動目標及び年間計画を立てた。(教科:課題研究) ・分散登校時に卒業した生徒とZOOM会議を行い、今後の活動についてアドバイスを受けた。(教科:課題研究)
6月	・新デザインのコンセプトを決め、デザイン画を作成した。(教科:課題研究) ・協力店舗への聞き取り調査を行った。(教科:課題研究)
7月	・デザイン画を基にパフェの試作をおこなった。(教科:課題研究) ・9月及び10月のしべパフェ販売に向けて製造練習を行った。(教科:課題研究)
8月	・9月及び10月の販売に向けてPOPやポスター、アンケートの作成を行った。(教科:課題研究) ・Instagramを開設し登録を呼び掛けるポスターの作成を行った。(教科:課題研究)
9月	・町内販売会におけるしべパフェ販売に向けた準備を行った。(教科:課題研究) ・10月のしべパフェ販売に向けて製造練習を行った。(教科:課題研究) ・釧路市販売会に向け、パフェの素材の一つとなるクッキーの製造を行った。(教科:課題研究) ・10月の販売に向けてPOPやポスター、アンケートの作成を行った。(教科:課題研究)
10月	・釧路市販売会に向け、パフェの素材の一つとなるクッキーの製造を行った。(教科:課題研究) ・町内でのしべパフェ販売に向けた準備を行った。(教科:課題研究)

11月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の成果研究発表会に向けて、情報機器を利用し、研究発表会で発表するためのスライドや画像の作成及び発表練習を行った。(教科：課題研究) ・地域みらい連携会議で今年度の活動を報告するために、発表するためのスライドや画像の作成及び発表練習を行った。(教科：課題研究)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の成果研究発表会に向けて、情報機器を利用し、研究発表会で発表するためのスライドや画像の作成及び発表練習を行った。(教科：課題研究) ・引継ぎ資料をまとめた。(教科：課題研究) ・校内でのクリスマスイベントに向けたデザイン画を作成した。(教科：課題研究)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内でのクリスマスイベントに向けたPOPやポスターを作成した。(教科：課題研究) ・マイプロジェクトアワード2020に向けた文章や画像の作成及び発表練習を行った。(教科：課題研究)
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度に向けて、しべパフェへの想いや製造レシピ、活動の進め方などを3年次から2年次へ引き継いだ。(教科：課題研究・食品研究)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度に向けた活動目標と年間計画の作成を行った。(教科：食品研究)

3 地域みらい連携会議の開催内容

第 1 回	令和2年10月21日(水) 15:00~16:30 (本校)
出席者	標茶町長、標茶町農業協同組合組合長、標茶町観光協会会長、標茶町観光協会理事、クリプトン・フューチャー・メディア(株)チームマネージャー、ミルキークラウン乳業(株)、釧路教育局、北海道標茶高等学校校長、教頭、担当教諭、標茶高校生徒
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・担当生徒から3年間の実施報告 ・次年度以降の「しべパフェ」の取扱い
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生がいきいきと地元で活動していることに好感が持てる。来年度も地元の人にも買ってくれる商品の開発を目指してほしい。 ・ダイコンやトマトなどの地域資源を利用したソースを開発したら面白いのではないか。
第 2 回	令和3年3月23日(火) 予定
出席者	標茶町長、標茶町農業協同組合組合長、標茶町観光協会会長

	標茶町観光協会理事、クリプトン・フューチャー・メディア(株)チームマネージャー ミルクークラウン乳業(株)、釧路教育局、釧路総合振興局、 北海道標茶高等学校校長、教頭、担当教諭
協議内容	・次年度の活動方針の確認等
指導・助言を受けた内容	未実施
4 研究の成果と課題	
(1) 目的の達成状況	
<ul style="list-style-type: none"> ○ オリジナルデザインの開発のために、地域の特徴や自然を学び、生態系などを学んだことで、地域に対する理解を深めることができた。 ○ 協力店舗に訪問し、現状の確認や商品コンセプト、デザインのアイデアなどを話し合うことで、相互理解を深めることができた。 ○ 地方紙（釧路新聞）や町内広報誌、テレビのニュースなどのメディアに取り上げられたことで、多くの町民に活動を知ってもらうこととなり、活動に対する責任や誇りを感じることができた。 ● 標茶町へのメリットが飲食店に偏っていることから、規格外野菜や果物を利用したソースを考案していく必要がある。 ● 新型コロナ・ウイルス感染症の影響で、今年度は協力店舗でのしべパフェ販売を見送ることになってしまったが、販売できる時期となるまで連携を継続する必要がある。 	
(2) 目標の達成状況	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 一部予定していた販売会が実施されず、目標としていた販売個数を達成することはできなかったが、町内外3回の販売会で500個のしべパフェを販売することができた。 ○ 町内菓子店の商品を利用したコラボパフェを展開することで、標茶町や地元の銘菓を町外へ宣伝することができた。 ● 製造の手際や工程に問題があり、販売時にお客様を待たせる時間が長くなってしまったことから、開発の段階で製造の時間等にも注意を払う必要がある。 	
(3) 実践研究の規模	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在、取組の中心となっている酪農・食品系列の生徒が、商品開発のコンセプトやデザインの作成等を町内企業と連携しながら展開することができた。 ● 食品系列の生徒を中心とした取組によって専門性を高めることができたが、一方で、関わる生徒が限定されてしまっているため、他のプロジェクトも多面的に関われるよう、全体の組織構成を見直す必要がある。 	
(4) 研究成果の普及	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 12月上旬に本校で行われた校内実績発表大会において、これまでの活動を本校生徒約50名の前で発表した。 ○ しべパフェに取り組む生徒の想いを広く発信するために「MY PROJECT AWARD 2020」に応募し、審査の結果1月下旬の全道大会に参加することができた。 	

- 今年度の活動でしべパフェの認知度を高めることができたが、今後もSNSや町内広報誌を活用して定期的な情報発信をしていく必要がある。

(5) 実践研究内容

- しべパフェのデザインやコンセプト、流行を作るための活動について指導員等の方々からアドバイスをいただき、より町内の魅力を詰め込んだ商品の研究を行うことができた。

(6) 地域みらい連携会議

- 連携会議メンバーを本体とした関係機関の協力で、キッチンカーをお借りすることができ、多くのお客様にPRすることができた。
- 町内企業との連携を深め、他企業の商品をコラボさせた新しいしべパフェを成功させることができた。
- 10月に行われた連携会議では、3年次生が3年間の活動報告を行い、関係者の方々に対し活動支援への感謝と自身の成長、抱負について報告することができた。
- 連携会議の開催時期について、新型コロナウイルス・ウイルス感染症の影響で実施に踏み切れず、1回目の開催が遅くなってしまったことから、書面開催やオンライン会議等の方策を講じる必要がある。

5 プロジェクトの達成状況

(1) [評価の観点] 本道の基幹産業を支える人材や、地域を守り支えていく人材の育成について

(評価)

- ③ 一部の生徒に対しては、本道の基幹産業や地域を支える人材の育成につながった取組となった。

(評価した理由)

地域の特産物を学び、それをしべパフェの材料として販売することができたため、地域理解を深めるとともに地域をPRすることができた。

(2) [評価の観点] 地域の自治体や企業、産業界等の関係機関との協働について

(評価)

- ④ 地域の自治体や企業、産業界等の関係機関と協働した取組を実施し、成果や課題を共有している。

(評価した理由)

キッチンカーやアイスクリームフリーザなど、地元企業からの支援をいただきながら地域イベントでのしべパフェ販売やPRを行うことができ、その成果について連携会議で報告した。

(3) [評価の観点] 生徒の主体性について

(評価)

- ③ 生徒は、教員等から指示を受けながらも、主体性を持って取り組むことができています。

(理由)

地域企業へのヒアリングやOBとのZOOM会議など、コロナ禍でも自分たちができることを考え、高校生ならではの発送でプロジェクトを進めることができた。

(4) [評価の観点] 地域課題の解決状況について

(評価)

③ 取組をとおして、地域課題について改めて考え、その解決につなげることができた。

(理由)

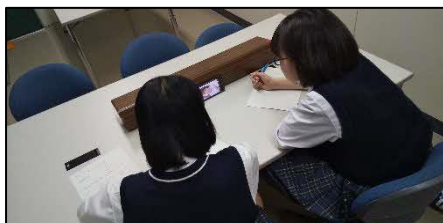
企業同士の商品をコラボレーションさせたしべパフェを開発することで、地域の特産物の可能性を広げることができた。

6 今後の取組

- ・ 規格外野菜や果物を使ってアイスのソースを開発することで、より標茶町の魅力が詰まったしべパフェを開発する。
- ・ コラボパフェを広く展開していくことで、企業と企業を高校生がつなげることで標茶町の可能性を発信する。
- ・ 協力店舗との連携を継続し、しべパフェの販売時期や方法について検討する。
- ・ 観光協会や商工会を通じて定期発行されている情報誌やSNSを活用し定期的に情報を発信する。

7 参考資料

(1) OBとのZOOM会議



コロナ禍で今後の活動方針が決まらなかったため、昨年度活動していたOBとZOOM会議を行いました。昨年度の経験を踏まえて、OBから、今後のプロジェクトの進め方や最終的な目標など、とても貴重なアドバイスをいただきました。

(2) 協力店舗へのヒアリング



6月にしべパフェの協力店舗へのヒアリングを行いました。予定では今年度、各店舗からしべパフェを提供してもらうことになっていましたが、人の往来が制限されている状況では難しいと判断し、時期を延期することにしました。

(3) 地域のお菓子を利用したしべパフェの開発



9月と10月に予定されている販売会に向けて、町内で販売されているお菓子をコラボレーションさせたしべパフェを開発しました。販売することで、標茶町や特産物についてもPRしていきたいと考えました。

(4) 釧路市での販売



10月17日に日専連釧路文苑店で販売会を行いました。キッチンカーをお借りしてしべパフェを100食販売しました。提供に時間がかかってしまうという課題は残りましたが、今年度はコロナ禍でなかなか販売ができない中、やっとお客様にしべパフェを提供できて良かったです。

(5) 地域みらい連携会議で活動報告



10月21日に本校で地域みらい連携会議が行われました。3年間のしべパフェの活動を振り返り、関係生徒が、その成果や今後の活動について報告しました。会議に出席していた関係者の方々から、今後の展開について貴重なアドバイスをいただいたので、次年度に引き継いでいきます。